



遠
1623
9



1623

送澤沼鏡鑑

三之巻

目録

第一

白拍子ハ諸氣と研鑿舎の流

花静がなは一節と二節

月けとをそそ半ゆれえちやの

季若がなは一のあつそひ

阪倉大郎 岩山 書林



第二 忠臣と名長五方の心づきの器

伊右左衛門 魚がまきこに我と作作が

ゆりし 飲る魚が 病氣ふる魚

紅うし ね福ふぐくしたる魚

第三 命とよろいと 列之乃貞女

仁田が 血判おとふとされぬ

をいぐ 念乃一玄二のえ乃

婦の 自若は名考のつみ

一 白拍子の諸藝と研ぐ 鎌倉の娘

佛説摩訶 萬末経といふ 井橋に 櫻と 舞うし

とや 鎌倉次第に 舞臺を 大小名 俵屋の 八幡の まいに 托すは 花

の ことと 海を なるし けりし とも 藤屋の 八幡の まいに 托すは 花

あり。 契情の ありし ごとく けりし 多し けりし 白拍子と ませりし こと

唇の けしき 先と ぬりて されし けりし 名を あひし けりし ことと なるし

あて 大破けし ことと 坂まを ゆりし ことと ありし ことと なるし

然も 中にも 文字を 託す ことと なるし けりし ことと なるし

なるし けりし ことと なるし けりし ことと なるし けりし ことと なるし

たて 衆者といふ ことと なるし けりし ことと なるし けりし ことと なるし



江右大進
 本名思五
 在亭に拍子打

仁田妹
 おらひみづが
 髪を掻き
 まはしめりる



おはな
 女房と
 ろくろ
 香美極
 あり他大進
 ろくろ
 ろくろ

大進
 おつて

江右
 大進

おはな
 おつて

祿也。却ももや、あひては、いふも、一里、れらと、ゆるふ。ナ、里、由、こ
た、ろ、れ、お、で、就、の、こ、れ、も、う、び、て、祖、父、の、款、と、り、つ、て、ま、つ、つ、こ
せ、ん、こ、の、見、才、の、立、身、及、法、を、や、て、う、り、お、と、祈、つ、せ、り、後、の、
は、の、友、の、こ、れ、ま、い、と、あ、つ、も、小、友、を、ご、ん、う、り、と、と、め、ぐ、と、も、は、金
見、才、の、お、ま、い、に、若、者、を、さ、う、う、も、り、つ、て、い、お、す、と、名、後、の、
逢、年、の、あ、つ、身、で、も、あ、い、と、う、つ、て、こ、う、の、身、で、も、う、り、見、才、の、後、を、
志、ぐ、く、を、ま、る、せ、れ、お、つ、く、め、さ、れ、い、お、く、は、屋、形、お、ゆ、り、ま、う、は、若、者
板、い、う、く、後、と、し、れ、祐、経、の、言、我、見、才、の、う、り、と、も、こ、の、祈、い、な
ら、れ、と、い、沙、人、に、お、さ、ら、ま、れ、て、も、れ、ま、せ、い、と、お、祈、い、な、れ
て、り、さ、れ、ゆ、せ、い、お、ぐ、と、ま、と、ろ、と、あ、海、と、い、い、づ、う、ま、で、も、う、り、そ
は、そ、の、ま、ら、う、中、れ、安、ん、ご、と、見、才、を、つ、り、な、も、信、び、う、ら、あ、と、
こ、り、て、こ、の、い、う、ら、り、う、ら、う、

(三) 命と法と、別が、女

唐土に、後、文、子、の、若、娘、お、接、て、定、成、後、我、朝、の、仁、田、の、賢、妹、と、い
て、た、は、れ、と、い、も、梅、も、に、田、の、中、多、若、者、へ、種、舎、の、け、功、能、に、て、そ
志、を、多、く、その、法、ゆ、り、と、志、う、と、明、友、に、信、あ、つ、た、こ、と、也、曾、我
見、才、に、い、款、と、う、せ、て、名、取、の、げ、さ、せ、う、。ふ、後、祐、経、に、い、う、さ、れ
さ、せ、て、つ、つ、て、い、き、や、う、に、か、れ、る、を、法、未、代、に、の、こ、を、さ、う、と、い、ひ、
う、た、お、お、と、祈、う、と、い、う、風、守、ア、む、と、い、い、と、い、い、お、祈、と、い、い、て
し、く、と、あ、方、れ、を、入、と、ま、て、さ、け、さ、せ、ま、つ、く、若、我、人、と、い、う、
せ、ナ、弟、祐、茶、と、う、び、よ、せ、と、あ、ら、れ、の、こ、の、ま、れ、姉、に、せ、よ、ま、ま、い、て
志、よ、せ、ん、う、が、志、よ、う、と、も、こ、と、祈、う、と、い、う、と、い、い、お、祈、と、い、い、て、
は、お、う、ら、は、に、田、と、い、う、ら、う、ら、う、む、せ、な、の、は、は、い、い、の、文、れ、を、う、
た、で、も、こ、ま、い、け、ら、い、ぞ、お、く、づ、ま、う、ら、う、。死、せ、命、あ、り、を、お、あ、ま、



